

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月28日

協議会名:	甲府市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富士急バス株式会社	「上九一色・中道地区コミュニティバス線」 古閑町～市立甲府病院経由～南甲府駅 上九一色出張所～市立甲府病院経由～南甲府駅	○令和6年度事業評価結果の概要は次のとおり。 ・本協議会 (一次評価) 「バス利用お買物手形事業の継続に向けて関係各所との調整を行うとともに、更なる周知・PRを行い、利用者の増加を目指すことが適当。」 ・関東運輸局 (二次評価) 「生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。」 ○以上の評価結果に対し、次のとおり対応してきた。 ・上九一色地区住民の代表者で構成する「上九一色地区公共交通協議会」において、令和6事業年度のコミュニティバス利用状況を共有し、利用促進について協議する中で、既存のチラシを刷新したうえで、上九一色地区での全戸配布を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標及び実績: (1) 1回当たりの利用者数3.6人以上【実績:3.45人】 (2) 年間利用者数3,200人以上【実績:3,351人】 (3) フィーダー系統の1回当たりの利用者数3.0人以上【実績:4.15人】 (4) フィーダー系統の年間利用者数1,700人以上【実績:3,022人】 分析:目標の内、(1)については未達成となったが、(2)・(3)・(4)については達成した。全体的に利用状況はやや増加傾向となっており、アフターコロナにおける人流の回帰や、コミュニティバスの地域への浸透が図られたことが要因として考えられる。	○引き続き、以下の取組を行う中で利用者の増加を目指す。 ・コミュニティバス利用者が商品割引サービスを受けられるよう、「バス利用お買物手形事業」の継続に向けて関係各所との調整を行うとともに、更なる周知・PRを行う。 ・モビリティマネジメント事業の内、「バス緑地」「サイクル・アンド・ライド」について、協力いただける事業者等を増やすべく取り組むとともに、更なる周知・PRを行う。 ○コミュニティバスの利用状況を注視し、必要に応じて運行計画の適正化について検討を行う。

地方運輸局等における二次評価結果 (関東運輸局)	既存のチラシを刷新したうえで、上九一色地区での全戸配布するなど、コミュニティバスの地域への周知に取り組まれ、利用促進、ニーズの取組を実施していることは評価できる。 コミュニティバスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。 導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
--------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名： 都留市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富士急バス株式会社	都留市循環線 都留市立病院～都留市駅 谷村・三吉地域	新たな交通形態について、協議会をはじめ、事業者・国・庁内関係部署と協議を行い、プレ運行の計画を整えた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	年間利用者目標数9,500人に対し、8,117人であった。	令和7年11月12日からのプレ運行を経て、市民の意見、要望を把握、協議会・事業者・国・庁内関係部署と協議し、8年度中に新しい交通形態を確立させる。(市内のみを運行する路線バスは令和8年4月1日より廃止となる)
富士急山梨ハイヤー株式会社	東桂線 東桂・谷村地域	新たな交通形態について、協議会をはじめ、事業者・国・庁内関係部署と協議を行い、プレ運行の計画を整えた。	B	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	1台あたりの平均乗車人数の目標1.3人に対し、1.1人であった。	令和7年11月12日からのプレ運行を経て、市民の意見、要望を把握、協議会・事業者・国・庁内関係部署と協議し、8年度中に新しい交通形態を確立させる。
富士急山梨ハイヤー株式会社	盛里線 禾生・盛里地域	新たな交通形態について、協議会をはじめ、事業者・国・庁内関係部署と協議を行い、プレ運行の計画を整えた。	B	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	1台あたりの平均乗車人数の目標1.3人に対し、1.1人であった。	令和7年11月12日からのプレ運行を経て、市民の意見、要望を把握、協議会・事業者・国・庁内関係部署と協議し、8年度中に新しい交通形態を確立させる。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)		協議会や関係者等と協議を行い、プレ運行の計画を整えるなど、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることは評価できる。デマンド交通などの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。					

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月15日

協議会名： 葦崎市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社 葦崎タクシー	運行系統: 竜岡線 (葦崎市立病院～葦崎駅～竜岡公民館)	新たな利用者の獲得、利用者の利便性向上を目指し、新たな公共交通の導入を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	目標値である経常収支率7.4%以上に対して、実績値は7.75%となり目標値を達成することが出来た。	AIデマンドバスの利用促進を図るため、より分かりやすい周知を心掛ける。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	新たな利用者の獲得、利用者の利便性向上を目指し、新たな公共交通の導入などに取り組まれ、経常収支率の目標を達成されたことを評価する。 収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年11月26日

協議会名： 南アルプス市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山梨交通株式会社	1号車 芦安線 市立美術館～徳洲会病院～白根支所～御勅使～芦安	<p>バスの乗り方、時刻表の見方が分からない市民が多い状況であったため、電話・窓口で問合せがあった際に、丁寧な説明を行った。</p> <p>また、市民グループを対象に体験乗車を行い利用者の増加を促進するための取組を行った。</p>	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	A	<p>1～6号車の年間利用数102,275人。</p> <p>フィーダー系統補助金対象路線1～3号車の年間利用数36,930人、フィーダー系統補助金計画時に設定した目標人数の33,861人を上回った。</p> <p>市民や利用者の意見・要望を取り入れ、時刻変更を行った成果及び、その後の周知が利用の増加に繋がった。</p>
山梨交通株式会社	2号車 八田・白根線 市立美術館～白根支所～徳洲会病院～白根Aコープ～八田支所～樹園			A	
山梨交通株式会社	3号車 若草・甲西線 市立美術館～fumotto (土日祝日のみ)～藤田～やまなみの湯～甲西Aコープ～甲西支所～秋山～市立美術館			A	
山梨交通株式会社	4号車 櫛形・白根線 市立美術館～青沼整形入口～南アルプス市役所～白根Aコープ～遊湯～fumotto (土日祝日のみ)～市立美術館			-	
山梨交通株式会社	5号車 八田・若草線 竜王駅～免許センター～白根高校～巨摩共立病院～市立美術館～遊湯～東花輪駅			-	
山梨交通株式会社	6号車 八田・甲西線 竜王駅～免許センター～白根高校～南アルプス市役所～カインズ甲西店～東花輪駅			-	

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	市民や利用者の意見・要望を取り入れ、時刻変更などに取り組まれ、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。
---------------------------------	--

フィーダー系統の利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月19日

協議会名： 笛吹市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
石和タクシー(株)	デマンドタクシーみさかルート 御坂町若宮地区 (旧若宮公民館) ～石和町駅前地区 (JR石和温泉駅) (R6.10.1～R7.3.31)	前回の二次評価では、利用実態の把握やデータ活用によるサービス内容の改善や住民にとって分かりやすい周知を実施するよう助言をいただいている。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 年間利用者数 目標 1,095人 実績 1,350人 市の運行費用負担額 目標 2,848千円 実績 3,963千円 利用者は目標を達成したものの、負担額は、目標を達成できなかった。 燃料費や人件費の増加に対応した契約金額見直しにより運行経費が増加したことが理由と考えられる。	R7.3.31で運行終了し、AIデマンド交通「のるーと笛吹」に置き換え
日之出観光自動車(株)	デマンドタクシーふじみルート 石和町富士見地区 (河内公民館) ～石和町駅前地区 (JR石和温泉駅) ～石和町山岸地区 (山岸公民館) (R6.10.1～R7.3.31)	得られた運行データなどから、運行効率を改善するシステム変更や、専用資料を作成しての説明会実施を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 年間利用者数 目標 1,865人 実績 1,666人 市の運行費用負担額 目標 3,327千円 実績 3,927千円 利用者数、負担額ともに、目標を達成できなかった。 実証運行中だったAIデマンド交通へ移行した利用者がいたことや、燃料費や人件費の増加に対応した契約金額見直しにより運行経費が増加したが理由と考えられる。	R7.3.31で運行終了し、AIデマンド交通「のるーと笛吹」に置き換え

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山梨第一交通(株) (1台運行)	AIデマンド交通「のーと笛吹」 区域運行(石和町、御坂町、八 代町、芦川町、春日居町、境川 町石橋、大坪、三柵、小山、前 間田) (R7.4.1～)	前回の二次評価では、利用実 態の把握やデータ活用による サービス内容の改善や住民に とって分かりやすい周知を実施 するよう助言をいただしてい る。 得られた運行データなどから、 運行効率を改善するシステム 変更や、専用資料を作成して の説明会実施を行った。	A	事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	B	事業が計画に位置付けら れた目標を達成できていな い点があった。 年間利用者数 目標 5,828人 実績 15,369人 市の運行費用負担額 目標 15,676千円 実績 29,054千円 利用者数は目標を達成した ものの、負担額は、目標を 達成できなかった。 燃料費や人件費の増加に 対応した契約金額見直しに より運行経費が増加したこ とが理由と考えられる。	前回の二次評価から、利用実 態の把握やデータ活用による サービスの改善を引き続き検 討していく。特に、利用者数の 少ない日中の時間帯の利用者 増加に向け、現在の利用者の 年齢構成や利用目的の分析な どを行い、年齢層を絞っての周 知や、朝と夕方に通勤通学な ど以外の時間帯が変更しやす い目的(買い物や通院などが 想定される)に対する利用者 に対し、日中の時間帯へのシフト などの案内を行う。また、引き 続き、説明会などの実施は継 続しつつ、さらなる利用促進を 図るため、商業施設、娯楽施 設等との連携やコラボレーショ ン、協賛企画の実施などによる 周知活動や利用促進、市負担 額の軽減策を検討する。具体 的には、公共交通利用お買い 物キャンペーン、ポスターの掲 示、協賛金の募集などの実 施。
石和タクシー(株) (2台運行)							
日之出観光自動車(株) (2台運行)							
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)							

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和 7年 12月 22日

協議会名:	上野原市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社駅前タクシー	・第1.1地域 (桐原方面)	【前回評価結果】 ・今後利用者になりうる住民等 に対して新たな取り組みを検討 していただきたい。	A ◆利用者数:1,704人/年 :6.43人/日 ◆交通空白地域の解消や 交通弱者を中心とする市民 の移動手段の確保などが 図られた。	C	◆上野原市の人口は減少傾向 にあり、利用者的大幅な増加 は見込み難いが現状維持、増 加に向け新しい取り組みや利 用促進を検討する。 また、デマンドタクシーは市民 であれば誰でも利用可能であ るが、高齢者の交通手段として 認知されているため、若い世代 にも利用してもらえるような啓 発活動を今後実施していきたい。 また、今後も市民の要望に 添った事業にするためにも関係 事業者との協議も続けていく。
富士急バス株式会社	・第1.2地域 (西原方面)	・導入している交通によって市 民の活動がどう変わってきたの か、必要に応じて副次的な効果 を分析することも検討していた きたい。	A ◆利用者数:2,216人/年 :8.35人/日 ◆交通空白地域の解消や 交通弱者を中心とする市民 の移動手段の確保などが 図られた。	A	
上野原タクシー株式会社	・第2地域 (大鶴・甲東方面)	・生活様式に合わせて利用方 法を解説する案内チラシを配布 するなど、住民にとってわかり やすい周知を行うことも検討し ていただきたい。	A ◆利用者数:1,484人/年 :5.55人/日 ◆交通空白地域の解消や 交通弱者を中心とする市民 の移動手段の確保などが 図られた。	C	
有限会社四方津交通	・第3地域 (大目・巖方面)	【反映状況】 ◆令和6年10月より要望のあ った土曜日の運行を開始し令和7 年4月より本格運行へと移行し た。	A ◆利用者数:3,894人/年 :14.54人/日 ◆交通空白地域の解消や 交通弱者を中心とする市民 の移動手段の確保などが 図られた。	A	
有限会社島田交通	・第4地域 (島田・秋山方面)	◆案内チラシを新しくし、わか りやすい周知を行った。また、小 中学校への配布も行い、利用 促進を図った。	A ◆利用者数:2,164人/年 :8.03人/日 ◆交通空白地域の解消や 交通弱者を中心とする市民 の移動手段の確保などが 図られた。	C	
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	新しい案内チラシを作成をして小中学校などへの配布するなど、わかりやすい周知を実施して、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることを評価する。 将来にわたって公共交通の利用者となり得る子ども・若者世代の公共交通利用を促進し、公共交通を利用する習慣の形成につなげることを期待したい。 デマンドタクシーの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月28日

協議会名： 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
甲州タクシー(株)	甲州市塩山地域 (松里・玉宮・共通 (市街地) エリア) を運行	二次評価で今後利用者となりうる市民等に対する新たな取組やわかりやすい住民周知を行うこと等の助言をいただいたため、以下の対応を実施した。 ・「高齢者の移動手段に関するアンケート調査」の集計を行い公共交通会議で報告を行った。調査の結果、デマンドバスの運行の仕組みや利用方法が分からない等の意見が多数あったため、本市介護支援課で実施している健康イベントと合同で、利用方法等を説明する「デマンドバス乗り方説明会」を開催し、今後利用者となりうる住民等に対して分かりやすい周知に努めた。また、希望者については利用者登録を行い、参加者74名のうち、31名が新規登録した。 ・運行委託事業者などの関係機関と意見交換する機会を定期的に設けることで、運行状況の分析や情報共有を行い、市民に利用してもらえる公共交通を目指し検討を進めている。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 利用者数 【区域】 【目標】 【実績】 松里エリア 17人/日 9人/日 玉宮エリア 16人/日 9人/日 共通エリア 18人/日 14人/日	目標に対して松里・玉宮・共通の全てのエリアで未達。R7年度の利用者数は増加傾向にあるが、乗合率は低い状況。 R6年度に実施した「高齢者の移動手段に関するアンケート調査」でデマンドバスの運行の仕組みや利用方法が分からない等の意見が多数あったため、塩山地域の地区公民館や集会所など、さらに範囲を拡大し、「デマンドバス乗り方説明会」を開催することで、きめ細やかな市民周知を実施する。
山梨交通(株)	甲州市塩山地域 (神金・共通 (市街地) エリア) を運行	二次評価で今後利用者となりうる住民等に対して分かりやすい周知に努めた。また、希望者については利用者登録を行い、参加者74名のうち、31名が新規登録した。 ・運行委託事業者などの関係機関と意見交換する機会を定期的に設けることで、運行状況の分析や情報共有を行い、市民に利用してもらえる公共交通を目指し検討を進めている。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 利用者数 【区域】 【目標】 【実績】 神金エリア 14人/日 16人/日 共通エリア 14人/日 13人/日	目標に対し神金エリアは達成されたが、共通エリアは未達。R7年度の利用者数は増加傾向にあるが、乗合率は低い状況。 R6年度に実施した「高齢者の移動手段に関するアンケート調査」でデマンドバスの運行の仕組みや利用方法が分からない等の意見が多数あったため、塩山地域の地区公民館や集会所など、さらに範囲を拡大し、「デマンドバス乗り方説明会」を開催することで、きめ細やかな市民周知を実施する。

地方運輸局等における二次評価結果 (関東運輸局)	今後利用者となりうる住民等に対して「デマンドバス乗り方説明会」を開催するなど、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることを評価する。 デマンドバスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。 生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
--------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月29日

協議会名:	中央市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山梨交通株式会社 「中央市役所本館～シルク ふれんどりい線」	「中央市役所本館～JR小井川 駅～山梨大学医学部附属病院 ～中央市役所玉穂支所～JR 東花輪駅～中央市役所豊富支 所～シルクふれんどりい」間を 運行	【事業評価結果(助言)】 市民ニーズに即した公共交通 実現のため、デマンド交通の導 入等、本市にふさわしい事業 の在り方を検討していく。 【反映状況】 令和7年10月よりAIデマンド交 通の実証運行を開始。 コミュニティバスについては、令 和7年11月末に運行を終了す ることとなった。 デマンド交通実証運行の結果 をふまえつつ、本市にふさわし い公共交通の在り方を検討し ていく。	A 事業が計画に位置付けら れたとおり、適切に実施さ れた。	年間利用者数について R6年度 8,518人 R7年度 9,124人 と目標である現状値以上と なり、目標が達成された。 運賃収支率について 5.9%と目標である6.9%以上 を達成できなかった。 B 【分析】 利用者数については、年間 便数の増加によるものが大 きいが、一便あたりの乗客 数も4.6人⇒4.8人とやや増 加している。 運賃収支率については人 件費等の経費の増額によっ て、目標値の達成に至らな かった。	令和7年10月よりAIデマンド 交通の実証運行が開始され、 コミュニティバスについては、令 和7年11月末での運行終了す ることとなった。 コミュニティバスの利用者が スムーズにAIデマンド交通に移 行できるよう、運行終了につい ての周知、実証運行について の説明会の開催など、丁寧な 説明が必要である。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	転入者に対するコミュニティバスの周知など、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることは評価できる。 将来にわたって公共交通の利用者となり得る子ども・若者世代の公共交通利用を促進し、公共交通を利用する習慣の形成につなげることを期待したい。 生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 8年 1月 27日

協議会名： 身延町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山梨交通(株) (株)身延タクシー (有)中富タクシー	・運行区域 身延地区 下部地区 中富地区 一部町外 (市川三郷町岩間)	前回、未達成の項目を中心に 目標を設定	A	計画通り、適切に実施され た。	B ・乗合タクシー利用者数 目標:19,000人 結果:16,146人 目標は達成できなかった が、利用者数はコロナ禍以 前の数値に着実に戻りつつ ある。 R6利用者数:16,010人 比較増減:R7+136人	・民間路線バス、町営バス等と 連携し、より利用しやすい公共 交通を目指す必要がある。 ・住民に運行目的、利用方法等 をより一層理解してもらうため、 広報等を充実させる必要があ る。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	高齢者運転免許証自主返納支援事業について、町のホームページ、広報等に掲載して、周知をするなど利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることは 評価する。 乗合タクシーの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月21日

協議会名： 富士川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社青柳タクシー	小室エリア (路線定期運行) いきいきかん～南小前	出前講座において、デマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 また、利便性を高めるため、新たにQ&Aを作成し、利用者へ配布した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績は1日あたり、62人・満足度は92%となり、目標値の利用実績1日あたり70人、満足度95%には達しなかった。	利用実績の向上に向け、出前講座の開催等により利用方法の周知を図る。 また、警察署窓口等にチラシを置いていただき、免許返納者への案内を強化する。
有限会社青柳タクシー	小室エリア (区域運行) 増穂地区	出前講座において、デマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 また、利便性を高めるため、新たにQ&Aを作成し、利用者へ配布した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績は1日あたり、62人・満足度は92%となり、目標値の利用実績1日あたり70人、満足度95%には達しなかった。	利用実績の向上に向け、出前講座の開催等により利用方法の周知を図る。 また、警察署窓口等にチラシを置いていただき、免許返納者への案内を強化する。
有限会社豊栄タクシー	平林エリア (路線定期運行) いきいきかん～平林	出前講座において、デマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 また、利便性を高めるため、新たにQ&Aを作成し、利用者へ配布した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績は1日あたり、62人・満足度は92%となり、目標値の利用実績1日あたり70人、満足度95%には達しなかった。	利用実績の向上に向け、出前講座の開催等により利用方法の周知を図る。 また、警察署窓口等にチラシを置いていただき、免許返納者への案内を強化する。
有限会社豊栄タクシー	平林エリア (区域運行) 増穂地区	出前講座において、デマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 また、利便性を高めるため、新たにQ&Aを作成し、利用者へ配布した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績は1日あたり、62人・満足度は92%となり、目標値の利用実績1日あたり70人、満足度95%には達しなかった。	利用実績の向上に向け、出前講座の開催等により利用方法の周知を図る。 また、警察署窓口等にチラシを置いていただき、免許返納者への案内を強化する。
有限会社鰺沢タクシー	十谷エリア (区域運行) 鰺沢地区	出前講座において、デマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 また、利便性を高めるため、新たにQ&Aを作成し、利用者へ配布した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績は1日あたり、62人・満足度は92%となり、目標値の利用実績1日あたり70人、満足度95%には達しなかった。	利用実績の向上に向け、出前講座の開催等により利用方法の周知を図る。 また、警察署窓口等にチラシを置いていただき、免許返納者への案内を強化する。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

出前講座において、デマンドの利用方法の周知をして利用実績の向上を図るなど利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることを評価する。
フィーダー系統の利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。